



TIFA会報

2014年5月17日
Vol.109
立川国際友好協会
発行責任者 齋藤 實
編集責任者 小林 保

Tachikawa International Friendship Association

自信と誇りを高めつつ前進を

立川国際友好協会 会長 齋藤 實

会長選挙の結果、五期目の会長に推挙されました齋藤實です。26年度活動のスタートに当たり一言ご挨拶申し上げます。

立川国際友好協会は、創設以来22年目を迎え、多文化共生都市立川市の建設を夢見て結集したボランティア団体です。しかも外国人の為に生活用語のコミュニケーション能力を高める事を第一義とした、日本語を無料で教える市内唯一のボランティア団体です。

昨年度は柴崎教室と松中教室の3教室で、延べ人数2,300人の外国人受講者と、延べ2,200人のボランティアが参加し、延べ140人の保育児を預かっております。受講者の国籍は、25カ国に及んでいます。18万人口の立川に在住外国人は約3,500人の登録者がおり、年々増加傾向にあります。

この度第3次多文化共生推進プラン策定の時を迎え、当協会の活動が立川市の未来を切り開く為に益々必要且つ重要性が高まっている事に、誇りと自信を感じつつ、今年も精進して参りましょう。

TIFATIFATIFATIFATIFATIFA

木曜教室スピーチ大会、終業式、ランチパーティ

3月20日(木)木曜教室の今年度最後の行事としてスピーチ大会、終業式、ランチパーティが行われた。

スピーチ大会には8ヶ国12名の受講生が、日頃の授業、日常生活の内容や初めての外国(日本)の感想、母国の紹介、日本の四季などを発表し、発表者にはささやかながら賞品を授与された。発表者は次の通りです。(敬称略)

①志水清子(ブラジル)(桐ヶ谷)②柴崎アヤカ(中国)(鴻地)③グエン(ベトナム)(佐保山)④洪銀珠(韓国)(中西)⑤孫宏峰(中国)(柏田)⑥ジャスミン(エルサルバドル)(成田)⑦白崎キンバリ(アメリカ)(徳永)⑧齋藤クレア(イギリス)(渡部)⑨村沢マユミ(ブラジル3世)(小町)⑩蘇佩閣(台

湾)(佐藤達)⑪滝本奈美(中国)(大内)⑫村沢アイコ(ブラジル2世)(鈴木洋)。

引続き今年度の終業式には、授業回数のべ40回のうち、70%(28回)以上の出席者15名(本日出席8名)に精勤賞が贈られ、また、永年ボランティアとして活動され今年度を最後に退会する小澤登美子、橘田節子、佐藤宥子、鈴木正枝さんの4名に花束が贈呈されました(小澤さんは途中早退)。その後はいつもながら、各国の家庭料理をシェアしていただくランチパーティで今年度の授業はすべて終了!! (KY記)



発表風景と発表受講者と担当ボランティア



精勤賞受賞受講者



ランチパーティ

土曜教室 スピーチ大会

平成 25 年度最終日の3月 29 日、土曜教室では受講生全員参加でスピーチ大会が行われました。

今までの勉強の成果を発表する機会ということもあり、しっかり準備をしてこの日を心待ちにしていた生徒もいれば、不安と緊張で一杯の生徒まで、スピーチ前の様子は多種多様。

たどたどしくも微笑ましい自己紹介から、母国のことを興味深く紹介してくれるスピーチ、自分の考えを熱く主張するスピーチまで、さまざまな内容に盛り上がり、日頃の勉強の成果を見せてくれました。



☆☆TIFA 会員動向☆☆ (敬称略)

3月発行会報V o 1. 108 記載以降の会員移動

木曜教室：①退会 (なし)

②入会 (3名)：乙幡智子、杉山章子、
松本久、

③休会 (1名)：鴻地昌代、

土曜教室：①退会 (3名)：大嶺晴香、田中祐子、
横尾妙、

②入会 (なし)

③休会 (1名)：澁谷直毅、

乙幡智子さんは(土)から(木)へ転籍

お知らせ

- 6月 特に行事はない。
- 7月 7日 土曜教室の七夕祭り
- 7月 17日 木曜教室の1学期終了
- 7月上旬または下旬 防災館見学

2007年に韓国から来日して木曜教室に通っていた柳恩姫さんが看護師国家試験に合格し、川崎の病院に就職も決定しました。おめでとうございます。

今年度の多文化共生推進検討委員会にTIFAから下記の3名を推薦しました。頑張ってください。

森 和子氏 牛島 芳氏 藩 勤毅氏

2014年度 土曜教室 開校式

橋本

4月19日19時より、TIFA日本語土曜教室の2014年度開校式が行われました。

学習者、ボランティア総計56名出席のもと、冒頭齋藤会長あいさつで始まりました。TIFAの活動は22年間続いていること、そして昨年は21か国から延べ2191名参加があったと報告され、14年度も「楽しく、仲良く、元気よく」をスローガンに進めることを話されました。(土曜教室 18か国 1087名)

続いて、来賓の協同推進課初鹿課長、諸井係長より挨拶があり、外国人学習者への激励とボランティア教師への感謝の言葉をいただきました。次に新年度ボランティアの役員体制と係の紹介がありました。新年度土曜教室は、日本語を少しでも上達させる場として、そして外国人学習者が楽しく安心して過ごせる場とするよう努力することを確認しました。最後に記念写真を撮り、勉強に入りました。

今年1年 またみんなで頑張りましょう。



土曜教室の開校式

2014年度 木曜教室 開校式

小木曾

平成26年度のTIFA日本語教室/木曜教室の開講式が4月17日(木)午前10:00から柴崎学習館にて開催された。斉藤会長より「今年度も明るく、仲良く、元気にをモットーにTIFA活動を盛り上げ活性化してゆこう」との挨拶があり、続いて立川市役所協働推進課課長初鹿俊彦、多文化共生課係長諸井陽子の両氏より「立川市を外国人にとっても住みよい街に造り上げてゆく事は重要な施策であり、TIFAが日本語教育だけでなく様々な貢献をしていることを高く評価し、今後の活動に期待する」との挨拶を頂き、全員で記念写真を撮って無事に式を終了した。

新年度から新たに7名の外国人が受講することになり初日の受講生は33名、一方でボランティアにも4名の新規加入があり、受講生の皆さんに少しでもお役に立てるよう最善を尽くしてゆくつもりである。今年度の年間計画は1学期14回、2学期16回、3学期10回の合計40回の予定であるが、より一層の充実した教室運営を心がけて行きたい。



木曜教室の開校式



木曜教室の新たに入会した3名ボランティア教師

2014年度 松中教室 開校式

遠山

松中教室の4月新年度の様子を報告します。

4月19日(土)に新年度第一回の講師スタッフミーティングが行われました。講師数は市の広報誌「たちかわ」でのお知らせの成果もあって新講師12名の参加があり、旧来の9名から一挙に倍の20名前後に増えました。

一方受講生の方も多少出入りがあると思われませんが30名前後になります。その受講生の母国語は中国語、ハングル、スペイン語、ポルトガル語、フィリピン語、ベトナム語で構成は小学生から大人までの日本語を初めて始める人からかなり話せる人まで多岐にわたっています。

松中教室では受講生に対して基本的に担当講師を決める形で授業をしていますので4月の様子を見て5月辺りから状況に合うように新しく担当替えを行う予定です。

ミーティングでは教室開催日の確認、出欠、資料貸出しのルール説明会計報告などのほか新任講師の自己紹介が行われました。

6月初めには受講者・講師合同での行事「東京ゲートブリッジ、レインボーブリッジを歩く会」も企画されており例年になくにぎやかな新学期を迎えています。



講師スタッフミーティングの様子

TIFATIFATIFATIFATIFATIFA



海外で日本語を教える人達

筆者は現役時代には海外勤務が多く、退職した現在、ベトナムで日本語を教えています。日本語教師になった経緯等について書いてもらいました。

ホーチミン市からシンチャオ！ (ベトナム語で「こんにちは」)

(M. N)

私は2011年に、中国・青島市で日本語教師を始めました。そもそも教師を始めたのは、50代前半に永年務めた会社での、自分の老後を考えるセミナーが出发点だったように思います。それから5年近く、暇なときに第二の人生の設計図を書き始めたのです。要約するとこんな感じでした。

① 高齢で一から若い人とも職を争うには、海外で始めるのが得策。自分は社会人生活の半分近くを海外で過ごした経験もあり、戦っていけるだろうと。

② 数か国で教師体験し、後年自分の家から通える国内校で勤務する順番が就活の方略として良いだろう。

③ 体験を強みにするには、4, 5か国、それも異なる文化・地域・言語グループでの体験が必要。

④ 教師としての質を高めるため、できれば欧米の大学院レベルを卒業する。特に、中近東以西での職探しのため。

2009年に早期退職の機会が意外に早くやってきました。56歳での旅立ちとなりました。先ず半年で、(通信教育で)資格取得し、豪州・メルボルン大の大学院で言語学の準修士コースを半年かけて卒業。就活開始し、半年後中国の学校から合格の電話がありました。12年5月まで、留学生主体の学校で、留学ビザ要件を満たすレベルの到達を目的とする日本語教育を体験。次に、10年暮らした欧州での就活にトライしました。が、これは3か月の現地就活も実らず、とん挫。代わりにベトナム・ハノイの学校で職を得ることに。これは、政府の技能実習制度に基づく実習生の初級レベルの会話力を付けさせる教育でした。ただ、契約は3カ月で、職をこなしながら次の職を探し、現在のホーチミンの学校との1年契約に至りました。こちらは、よくある町の語学学校で、様々な年齢、職業、目的を持った学生が混在しております。その初級から中級レベルの、比較的会話力養成に力点を置いた教育です。

留学生や実習生は、動機づけの点で強いものを持っており、町の学校の生徒とは異なります。彼らが無事目的を達成し、日本に旅立つときに、この仕事の達成感と満足感を得るときです。今の学校では、ベトナムの日本語熱を追い風に多数の初心者が門をたたくものの、約半数はついていけず落伍してしまいます。言葉を学ぶ難しさは、母語と学ぶ言葉の距離によりますが、ベトナム語は発音が難しく、文法は簡単と言われます。11の母音と声調が6つもあるのがその理由です。そのベトナム人が日本語を学ぶとなると、発音は簡単ですが、文法は助詞の存在はじめ、日本語・膠着語と対極にあるため、相当難しくなります。それとかつて漢字文化圏にあったのに止めてしまったため、漢字習得が欧米人同様至難の業となります。やる気を持続させ、少しずつ上達する彼らを実感する時が、当地でのやりがいにつながっています。休まず、授業に来続けてもらうには、どうしたらいいか。毎日、自問自答が続きます。



筆者と現地の日本語教師